

日本看護歴史学会

会報

日本看護歴史学会
第16号
1993年10月10日

— 新しい看護職の

歴史の創造へ向けて —

草刈 淳子

去る八月二八日(土)、二九日

(日)の両日、神戸市の勤労会館で第七回大会が盛会裡に開催された。本年は、明治七年八月一八日にわが国初の医療関係法として「医制」が制定されてから、一〇年目の年にあたる。この「医制」の第五〇条から五二条に「産婆」が規定されていたことから、今大会は「医制一〇〇年『産婆制度を考へる』」のテーマでなされたわけである。関西地区の関係者の熱意ある呼掛けもあって、助産婦の出席が多く、出席者は一三〇人を越えた。特に開業助産婦歴五〇年という、助産婦の歴史の「生き証人」ともいえる先輩の方々の存在

が一際目だった。

高橋みや子氏の基調講演および女性学の立場からの大林道子氏の記念講演によって、助産婦が歩んで来た歴史を、過去の「産婆」誕生の医制制定時から見直し、さらに現代社会の急速な変化への対応としてのこれからの助産婦のあり方を探る上で、またと無い機会となったともいえよう。

これは、本学会が七回目を迎えるまでになり、また、現在の看護職が置かれている状況とも重なって、歴史への関心が、単に過去の資料についての研究に留まらず、現在に至る経緯を踏まえて、さらに、これからのあり方を主体的に

とらえる、「歴史をみる目」が育ちつつあることを窺わせる・・・とみるのは早計であろうか？

本学会の第二回大会は、実質的な研究活動の第一歩をあゆみだした年であった。シンポジウム「戦後の看護を語る」のシンポジストの一人として看護管理学の立場から発言させて頂く貴重な機会を与えられ、戦後の看護の歩みを改めて通観してみても、これまでの看護の歴史が、いかに「作られた歴史」であったかを思い知らされた。折しも昭和六三年は、日本の医療が、保健・医療からさらに福祉も連携し大きく転換した年でもあった。

ここ数年の世界の変化は目まぐるしく、国内においても与野党逆転が起こるなど、歴史の大転換が日常的ともいえる程に展開されている。時代の転換がもたらす世界的な潮流なのであるうか？

こうした社会の変貌を反映して、医療界もようやく、長年の「医師中心」のあり方から、「患者中心」の医療へと動きだしたかに見える。看護界で「患者中心の看護」が云われ始めたのは、一九六〇年代ですでに三〇年前のことであるが、

昨年の医療法第二次大改正により、四五年ぶりに医療施設の機能

分類がなされた。まだ現実に動きだしていないとはいえず、看護はこれからのような変貌をとげるのであるうか？

本年二月中旬、社会保障制度審議会の将来像委員会の第一次報告がなされた。歴史的に日本の社会保障は、貧困者を救済する公的扶助として発展してきた。その推進の基本原則は、普遍性、公平性、有効性、総合性、権利性であった。しかし、医療や福祉のサービスについて「公的責任」のあり方をめぐって、個人や家族の私的責任という新たな視点から問いなおされている。

こうした面からみても、日本の医療は、すでに第一発展段階を終え、明らかに質的に異なる第二段階へと確実に歩みだしている。

過日、戦後の日本の看護を推進してきた国立東京第一病院のほぼ五〇年にわたる「看護のあゆみ」が出されたが、今日、大多数の施設の看護組織の成員は、戦後の新制度教育を受けた看護婦によって構成されるに至り、新しい看護婦像を自ら創造していける時代が到来したともいえる。

この度の医制一〇〇年を契機として、看護婦の「作られた歴史」から「創り出す」歴史への転換点

(八頁上段へ)

第七回総会報告

亀山 美知子

去る八月二八日、本会の第七回総会が神戸市勤労会館で開催された。前年度の活動報告の詳細は省略するが、発行が一年より遅れていた本会機関誌『日本看護歴史学会誌』第六号は、諸般の事情により今総会直前に刊行された。発行人日の大福な遅れについては心よりお詫びする次第である。

一、本年度活動方針

すでに三年前より、本会は看護歴史研究に関する基礎の確立を目指すべく、講演等を準備する一方で、日常の研究活動の推進に努めてきた。

現在の看護界の現状は、将来的には希望のもてる状況といえなくもないが、反面、教育の現場を中心として業績づくりのみ奔走するといった憂えるべき状況も浮かがる。この中において、本会は今後とも研究者としてのマナーも含めた、より高い資質の開発を目指すことを活動方針の主眼とする。

尚、本年八月一日には関西初の学習会を実施したが、今後、各地でも同様の活動の実現をめざしたい。

一、本年度事業計画

前述のとおり、学習会等の準備を働きかけることと共に、第七回大会のテーマである「医制一〇〇年—産婆制度を考える」に基き日本でも最初の医療制度として「医制」が明治七年（一八七四）八月一八日に発布されたことに伴う、産婆一〇〇年を記念する講演等を準備した。

又、すでに予告したとおり、記念テレカを作製し、広く社会へのPRを行なうものとする。

尚、第七回大会には、日本助産婦会兵庫支部・同大阪府支部、社団法人京都府看護協会、兵庫県下の各教務主任会の御協力を得たことをここに深く感謝する。

◆新幹事の承認と

役割分担決定される

- 代表幹事 亀山美知子
 会計 依田和美、大平政子
 事務局 草刈淳子、鶴沢陽子
 分科会 高田節子、五十嵐節
 渉外 高橋みや子
 学会誌担当 玄田公子、亀山美知子、岡山寧子（他に会員中より、吉川龍子留、神永恂子の両氏が編集委員として選出された。）

日本看護歴史学会 1993年度予算案

収入の部 (単位 円)			
項目	予算額	摘要	前年度決算額
前年度繰り越し金	792,417		919,163
会費	600,000	150名×4,000	544,000
寄付金その他	10,000		31,152
合計	1,402,417		1,494,315

支出の部 (単位 円)			
項目	予算額	摘要	前年度決算額
事務経費	200,000		192,244
印刷費	(40,000)		(8,081)
通信費	(150,000)	会報3回 学会誌1回	(181,283)
その他	(10,000)		(2,880)
幹事会開催費	150,000		118,700
出版費	300,000		82,400
会報発行費	(100,000)	年3回	(82,400)
学会誌発行費	(200,000)	年1回	(0)
会員名簿費	0	1回/3年	30,900
総会費	50,000		50,000
分科会費	20,000		1,054
予備費	562,417	前年度学会誌発行費非執行分を含む	226,600
合計	1,402,417		701,898

日本看護歴史学会 1992年度会計報告

収入の部 (単位 円)			
項目	予算額	決算額	差し引き額
前年度繰り越し金	919,163	919,163	0
会費	600,000	544,000 会員95名 新入会員16名	▲ 56,000
寄付金その他	10,000	31,152 会誌等売上 (18,395) 広告料 (5,000) 利息 (7,757)	21,152
合計	1,529,163	1,494,315	▲ 34,848

支出の部 (単位 円)			
項目	予算額	決算額	差し引き額
事務経費	220,000	192,244	27,756
印刷費	(50,000)	(8,081)	
通信費	(150,000)	(181,283)	
事務用品	(20,000)	(2,880)	
幹事会開催費	100,000	118,700	▲ 18,700
出版費	300,000	82,400	217,600
会費発行費	(100,000)	(82,400)	
		13号 30,900 14号 30,900 15号 20,600	
学会誌発行費	(200,000)	(0)	
会員名簿費	30,000	30,900	▲ 900
総会費	50,000	50,000	0
分科会費	20,000	1,054	18,946
予備費	809,163	226,600 学会誌5号印刷費	582,563
合計	1,529,163	701,898	792,417

次年度への繰り越し額
 収入額 1,494,315円 - 支出額 701,898円 = 792,417円

(会計 依田和美)

